

なかふくら

～花と作文とあいさつの学校～



南九州市立中福良小学校

浪人したことの意味はあったか 松井秀喜の名言③

校長 折田 明世

大学受験に失敗し、1年間、予備校に通いました。今から40年前です。
高校3年の時、前代未聞の事件が起こりました。浪人生が、両親を殴り殺したのです。いわゆる、「金属バット事件」です。

そのニュースがテレビから流れたとき、父が、
「受験で大変だとは思いますが、でも、親を金属バットで殴り殺さなくても……」
と、絶句したのを今でも覚えています。

浪人時代は、とにかく大変でした。何が大変かという、成績が伸びないことでした。浪人生みんなが死に物狂いで勉強するので、どんなに頑張っても偏差値が上がらなかったのです。毎日10時間。とにかく勉強しました。テストの点数はどんどんよくなります。でも、偏差値というものは、まわりも同じように努力すると、上がらないのです。逆に言うと、スランプにでもなると、すぐに下がってしまいます。偏差値を上げて合格しないと浪人時代の努力は無駄になるので、すごいストレスです。正直、金属バット事件の浪人生のようになってもおかしくない精神状態でした。

そうした中、学んだことがあります。それは、
“勉強法は研究され尽くしている。だから、近道はない。人と同じか、それ以上の努力をするしかないのだ！”
ということです。

松井秀喜の名言を何回か書きました。それは、以下の文章です。

誰も永久に勝ち続けることはできない。敗戦はつきもので、スポーツは人生の早い段階でそういう感情を乗り越える訓練をする場でもある。

これを浪人時代にあてはめると、こうなります。

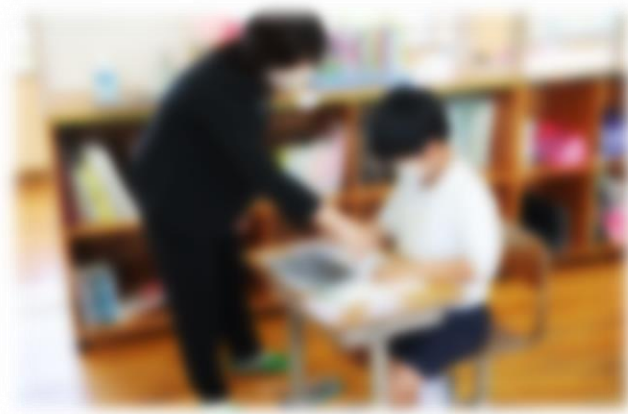
浪人は、学力を伸ばし、大学に合格するためだけに過ごす時期。もし偏差値が上がらなかったら、その時期を生きた価値すらない。

しかし、誰も永久に勝つ続けることはできない。合格しても不合格だったとしても、とにかく、努力をするしかない。その結果、だめだったとしても、それで負けたと思う必要はない。敗戦はつきものだから。受験勉強は、人生の早い段階でそういう感情を乗り越える訓練をする場でもある。

21名の子どもたちには、これから迎える高校受験等の時期には、ぜひ、死に物狂いの努力をしてほしいと思います。そして、そういう時期を乗り越え、人間として一歩ずつ成長して欲しいと願います。



水泳学習に向けて、プール清掃をしました。3年生から6年生まで協力して行いました。ブラシなどを使ってごしごしと丁寧に清掃をしました。プール開きが楽しみですね!



今年度も大丸小学校の校長先生に絵画を指導していただきました。ライオンやパイナップル、そして大きな木と各学年、先生の指導のもとに上手に描くことができました。



不審者対応訓練・

110番の家駆け込み訓練

田川組さん、永里郵便局さんのご協力で実施しました。「いかのおすし」や自分の命は自分で守るということを学習する良い機会となりました。

地域全体による子どもたちの安全を守る環境づくりに感謝しています。

◆7月の行事予定◆

1	金	校内水泳学習発表会 学校保健委員会 学級PTA
5	火	ゆめさとタイム (返却のみ)
9	土	土曜授業 集団下校
20	水	終業式
26	火	担任と語る会 (全保護者~30日)
水難事故防止運動強調期間 (県下全域~8/31)		

